



イネも早起きは三文の得 —涼しいうちにイネを咲かせて高温を避ける

生物資源科学部 准教授 小林 和広

イネは日本だけでなく、アジアやアフリカの熱帯諸国にとっても大切な食用作物です。地球温暖化が米生産に深刻な問題を及ぼすと考えられています。イネで特に怖いのは受精時の異常な高温です。高温によって花粉が障害を受けて、受精に失敗するとお米ができません。このような高温障害を避ける方法の一つが花を朝早くの涼しいうちに咲かせる方法です。日本で栽培されるイネの開花は午前10時から11時ごろで、開花は1時間で終わります。開花を少しでも朝早くできれば、高温を避けられます。品種改良によって遺伝的に早く咲くイネを作る方法もありますが、植物ホルモンの一種であるジャスモン酸メチルを散布することによって、1、2時間、早く咲かせることができました。ジャスモン酸メチルは目覚ましホルモンでしたが、花粉が成熟しないうちに一部の花を咲かせてしまう副作用がありました。このような副作用が起きた理由を今後、明らかにする必要があります。

